

ジェスチャーで伝える気持ち:インドと日本

ボコット・リティカー

博士課程

ビッショ・バロティ大学

日本学科

ritumatel3@gmail.com

はじめに：この研究では、インドと日本のジェスチャーに焦点を当てて調査を行った。このような研究の背後には、インドと日本の間でのコミュニケーション方法を改善し、それによって国際関係を強化したいという願いが潜んでいる。これは、両国の中で企業活動だけでなく、社会的、文化的、政治的なつながりも古くから存在しているからである。インドと日本はアジア大陸に位置しているにもかかわらず、言語が異なるため、両国間のコミュニケーションはいくぶん複雑になる。ところが、ジェスチャーを使った不言語コミュニケーションは理解しやすく、時間もかからないため、両国間で文化的、経済的、社会的な平和な橋を築くのに役立つと考えられている。現在、インドと日本の関係は強化され続けている。両国の文化的な類似点や相違点があり、それがジェスチャーの意味にも影響を与えている。したがって、ジェスチャーが疑いの気持ちを伝える場合、ジェスチャーの意味を誤解すると誤った感情が伝わる可能性がある。本研究では、以下の質問を調査することを目的としている。

- インド人と日本人がどの程度ジェスチャーを使用しているか。
- 日常生活におけるジェスチャーの役割は何か。
- 改まった言語状況において適切なジェスチャーをどのように使用するか。
- 日本とインドのコミュニケーションにおける類似点と相違点ジェスチャーについて考察する。

研究ノート：ジェスチャー、非言語コミュニケーション、印日関係

コミュニケーションは、私たちが周りの人と関わりながら、最も重要な要素である。これは、社会生活を営む人間同士が、互いの意思や感情、思考を伝達し合うことを指す。言語や身ぶり、画像などの物質的な記号を媒介手段として用いて行われる精神的な交流のことである。この用語の語源はラテン語の「分かち合う」を意味する

“communicare” に由来します。歴史的に見ると、物質的な記号は初期の身ぶりや叫びなどの直接的で無意識な状態から、より明確な言語などの普遍的かつ間接的な状態へと発展してきた。コミュニケーションの過程は、精神的な内容を物質的に表現する送り出しの段階と、それを受け手が受容する段階の2つの段階から成り立っている。コミュニケーションには、主に以下の2つの伝達手段がある：

言葉（言語）：音声や文字による伝達：これは、人の意志、思想、感情などの情報を表現し、伝達したり、受け入れたり、理解したりするための約束や規則の体系である。音声を介したものは音声言語（話し言葉）と呼ばれ、文字を介したものは文字言語（書き言葉）として知られている。

非言語コミュニケーション：これは、文字通り言語に頼らないコミュニケーションを指す。ノンバーバルコミュニケーションとも呼ばれ、話す、メッセージを書くといった言葉を使わない意思伝達方法を指す。表情や顔色、声のトーン、話す速度、ジェスチャー、視線などが、言語以上に重要な役割を果たす。我々はこれらの非言語コミュニケーションを無意識的に、また時には意識的に使い分けている。会話において、非言語メッセージが全体の65～70%を占めるとされており、言語メッセージはわずか30～35%に過ぎない。

ジェスチャーは、非言語コミュニケーションの一形態であり、他者に何かを伝達するために手や顔、体を使った身振り手振りのことである。目に見える身体的な動作が、言葉の代わりにあるいは言葉とともに特定のメッセージを伝える。非言語コミュニケーションの中でも、ジェスチャーは日常生活において非常に重要な役割を果たしている。これは、沈黙が有益であり、話し言葉が下品または無意味である文化において、ジェスチャーが非常に重要だからです。例えば、「おはようございます」という言葉に加えて、手を振るジェスチャーも交わされる。このように、私たちは意識的または無意識的に、朝から晩までジェスチャーを使ってコミュニケーションを行っている。

かつて文字が普及していなかった時代、人々は自らの気持ちや感情を伝えるために、ジェスチャーだけを使っていた。この時代において、ジェスチャーは世界で唯一のコミュニケーション手段であった。

人間関係においてコミュニケーションは普遍的な要素である。そして、コミュニケーションの中でジェスチャーは特に重要であり、古代から伝わる手段である。私たちが先祖



を理解するためには、ジェスチャーが主要な手段であったと考えられる。体の動きや仕草は、人間関係において自分の思考や感情を暗示的に表現するための有用なツールである。実際、人々が感情を伝える際に、55%以上がジェスチャーによって形成されていると言われている。そのため、ジェスチャーは人間の間での重要な非言語コミュニケーションの一環として信じられている。このような特性から、ジェスチャーの意味を理解することは、どの国の言語や文化においても重要である。世界各国には、それぞれ独自の体の動きやジェスチャーが存在する。ある国のジェスチャーや動作は、他の国では異なる意味を持つ可能性がある。したがって、異なる国々や文化において、同じジェスチャーに対する解釈が異なることから、すべての非言語コミュニケーションのジャンルが独自性を持つこととなる。

日本は技術的な面だけでなく、文化的、社会的、精神的な面でも発展している。日本人にとって、ジェスチャーを用いて自分の気持ちを表現することは礼儀正しさの象徴とされる。たとえば、日本では朝、昼、夜に他人と出会った際に挨拶をすると同時におじきを行うことや、別れの際に手を振りながらさようならと口にするなどの身振りが一般的である。話す際にも、言葉とともに不言語のジェスチャーが大切にされている。日本では、一日の仕事の中でこうしたジェスチャーが重要な役割を果たしている。日本社会においては、不言語コミュニケーションとしてのジェスチャーが、丁寧な気持ちを表現し合い、関係を強固に保つ上で大きな役割を果たしている。

一方で、インドは文化的な豊かさだけでなく、言語的多様性も特徴としている。インドには多くの言語が存在し、さらに宗教や伝統の多様性もある。こうした多様性があるため、人々はジェスチャーを通じて関係を築いている。言語の違いがあっても、インドのジェスチャーには差別がなく、相互理解を深める手段として用いられている。例えば、インドのどこでも人々は会う際にナマスカルを口にして手を合わせ、挨拶を交わす。上位の人に恵みを受ける際には、その人の足を触りながら手を頭の上に置いて祈る。このようなジェスチャーは、インドの東西南北を越えて橋となっている。

アジア大陸に位置する日本とインドの間には、文化的、社会的な類似点や相違点が見られる。両国の挨拶の文化にも類似点と相違点があり、時には同じジェスチャーが異なる意味を持つこともある。しかし、両国のジェスチャーは異なる場面で同じ意味を持つこともある。

同じジェスチャーで異なる意味：

日常生活では、人生は様々な言葉と一緒に色々なジェスチャーも使っている。そんなジェスチャーは国によってまたは地域によって同じであるジェスチャーが異なる意味を表している。

a) お金やワウ (Money Or Wow Sign)：

仕方—このジェスチャーは、人差し指と親指の先端を合わせて丸の形を描くように作る。

意味—

インド— 手で作りこのジェスチャーはインド国にとって、気持ちが驚いてワウ (wow) 、すてきの様子を表している。

日本— このジェスチャーは日本では、お金の意味を表している。

b) 恋人や良いこと (Lover or Ok Sign)

仕方—このジェスチャーでは、手から親指だけ上に出して、残り指が曲がって作り手形である。

意味—

インド— インドでこのジェスチャーは、何か承認した時使われている手形である。主に何か良くできた、すべてのことがよく頑張ったと言う意味を表している。

日本— このジェスチャーは、主に男性のジェスチャーでボーイフレンドがあるの意味を表している。

c) 恋人やトイレに行く (Romantic partner or leak sign)

仕方—このジェスチャーは、手から小指だけ上に立てて、残り指が曲がって作り、手形である。

意味—

インド— インドでは、このジェスチャーは普通に男性だけで使われている。こうして彼らは緊急にトイレへ行く必要があると言う意味を表している。

日本— 日本では、このジェスチャーはガールフレンドがあるの意味を表している。

d) 指きりや無関係 (Pinky Promise Or Unfriend Sign)

仕方ーこのジェスチャーは、二人がお互いの小指をからめて作る手形である。

意味ー

インドー インドでは、主に子供たちで使われているこの手形は友達と関係を辞める時、ほかの子供と話したくないと言う時に使われている。

日本ー 日本では、主に子供たちで使われているこの手形は約束を守ると言う意味を表している。

e) 平和や勝つ (Peace Or Victory Sign/ “V” Sign)

仕方ーこのジェスチャーは、手から人差し指と中指だけ取り上げて作る英語の「V」文字のような手形である。

意味ー

インドー インドでは、このジェスチャーはいつも勝ちの意味を表している。競争してほかの者に勝つ時、このサインをよく使って勝利の気持ちを表している。

日本ー 日本では、このジェスチャーは平和の意味を表す。だから、このジェスチャーは日本では平和のサインとしても知られている。ほとんどの日本人が写真を取る時、このサインをよく使って親しみの気持ちを表している。

1) 同じ意味でジェスチャーは異なる：

前の文章で同じジェスチャーで異なる意味と言うことについて調べた。でも、この場合、同じ意味でジェスチャーは異なるということについて具体的例を紹介してあげる。

a) おじき (Greeting)

意味ー下に説明するジェスチャーは、尊敬する時、挨拶する時、お願いの気持ちを表す時、患者の気持ちを伝える時、謝る時に主に使われている。このジェスチャーは基本的なやり方で、人に対する使う。友達だけでなく、知らない人に対するも使う。

仕方ー

インドー インドでは、ほとんどの人が改まった時に使われている1つ大事な手形のジェスチャーはナマステまたはナマスカルとして知られている。ナマステを挨拶しながら、両手の手平を合わせて、胸の前に取り上げて、頭を少しだけ下げて、笑顔作ってジェスチャーを作る。地図7.

日本- 日本では、普通に使われている体の動き方の1つはおじきである。腰から頭まで一直線になるよう背筋を伸ばし、45度の角度で上体を倒す。つま先の少し先を見つめて頭を下げると45度の角度になる。

b) 否定する(Saying “No”)

意味- 一下に取り上げているジェスチャーは、断るの意味または、相手のことに対する否定する意味を表している。

仕方-

インド- インドの場合は、頭を左右に動かしてこのジェスチャーを作る。

日本- 日本では、顔の前で、手を左右に振ってこのジェスチャーを作る。

c) 自分のこと(I or Myself)

意味- 一下に取り上げているジェスチャーは、自分または私の意味を表している。

仕方-

インド- インドの場合は、人が自分の人差し指または手で胸を指してこのジェスチャーを作る。

日本- 日本では、人が自分の人差し指で鼻を指してこのジェスチャーを作る。

d) 人を呼ぶ(To Beckon Someone)

意味- 一下に取り上げているジェスチャーは、人を呼ぶの意味を表している。

仕方-

インド- インドの場合は、自分自身の前、手を取り上げて、手は上下に動かしている。そして、手平は招く人の方に向いてこのジェスチャーを作る。

日本- 日本では、自分自身の前、手を取り上げて、手は上下に動かしている。そして、手平は呼ぶ人の方に向いて招いてこのジェスチャーを作る。

e) 怒り／嫉妬 (Anger/Jealousy)

意味- 一下に取り上げているジェスチャーは、人性の怒りまたは嫉妬の意味を表している。

仕方ー

インドー インドの場合は、手を前において、人差し指と小指だけを出して作る手形である。

日本ー 日本では、両拳を頭のそばにおいて、そのから人差し指だけを上の方に出して作る手形である。

2) 同じジェスチャーで同じ意味：

今まで紹介しておいた文章では「同じであるジェスチャーが異なる意味」と「同じである意味が異なるジェスチャー」について学んだ。その他にも同じであるジェスチャーが同じ意味と言う色々なジェスチャーは人性は自分の日常生活で使っている。そんなジェスチャーの例ここに取り上げている。

a) 手締め (Hand Clapping)

仕方ー このジェスチャーは、自分の両手の手平を胸の前に打つ手形である。

意味ー このジェスチャーは、日本とインド両国にある物事、特別なイベントなどの時にお祝いの意味を表している。

b) 別れるを言う (Saying Good-bye)

仕方ー このジェスチャーは、手のひらを相手に向いて、左右に振って作る手形である。

意味ー このジェスチャーは、日本とインド両国では、ひとから別れの意味または、別れの意味を表す。

c) 頭に手をやる (Rubbing or Touching one's head with a hand)

仕方ー このジェスチャーは、自分の手で頭を掻いて作る手形である。

意味ー このジェスチャーは、日本とインド両国では、叱れたり、褒められたりした時、照れや恥ずかしいの意味を表している。

d) 一杯行こう (Let's Have a Drink)

仕方ー このジェスチャーは、指の間におちょこをはさんで作る手形である。

意味ー このジェスチャーは、日本とインド両国では、一緒に飲み物をしようの意味または飲み物に行こうと言う意味を表している。

3) 数の数え方・示し方(Counting And Indicating Figures)

世界で国々の間で様々な文化ごとに栄えるとともに言語と不言語にも栄えることがあり、このようにジェスチャーにも数の数える方・示し方も様々である。下に日本とインドの数える方を伸びている。

インド

インドには、人差し指を開けて数える方を始まり、これは1のことを示し、その後、中指を開けて2、薬指を開けて3、小指は4、親指は5のことを示している。でも、6～10を示す時にほかの手を付けてその手の人差し指を始め、その後、中指・薬指・小指・親指を出して6・7・8・9・10のことを示している。

日本

日本には親指を曲がって数える方を始まり、これは1のことをしめし、その後、人差し指を曲がって2、中指を曲がって3、薬指を曲がって4、小指を曲がって5のことを示す。でも、6～10まで数える時に小指から始め、その後、薬指・中指・人差し指・親指を開けると6・7・8・9・10のことを示している。

結論:

ジェスチャーの研究は、コミュニケーションの理解や促進、異文化間の相互理解、言語学習の支援など、多岐にわたる分野で重要な役割を果たす。まず、ジェスチャーは言葉だけでは表現しきれない情報や感情を補完し、コミュニケーションの効果を高める。特に、ジェスチャーと言語が組み合わさることで、より豊かなコミュニケーションが可能になる。また、異文化間ではジェスチャーの意味や使用法が異なる場合があり、これらを理解することで誤解や衝突を防ぎ、相互理解を深めることができる。さらに、ジェスチャーは第二言語の学習者や言語障害者にとっても有益であり、言語の理解や発話を支援する手段として利用される。ジェスチャーの研究は、言語学習者がより効果的に言語を習得し、言語障害を克服するのに役立つ。最後に、適切なジェスチャーの使用はコミュニケーションの質を向上させるだけでなく、相互理解を促進し、異文化間のコミュニケーションを円滑にすることができる。これらの点から、ジェスチャーの研究は様々な分野において重要な役割を果たし、より豊かなコミュニケーションと相互理解の促進に貢献している。

本論では、インドと日本のジェスチャーには類似点と相違点が多く存在することを強調した。異なるジェスチャーの意味を理解していない場合、相手に対して誤解や不快な気持ちを表す恐れがある。したがって、異文化を訪れたり、外国人と交流する前に、身振りや手振りに関する適切な行動規範を理解することが重要である。このような事前の知識は、異文化間の円滑なコミュニケーションを促進し、誤解や摩擦を減らすのに役立つ。

非言語コミュニケーション、あるいはジェスチャーは、言語コミュニケーションをより効果的にする可能性がある。しかし、時にはジェスチャーによって伝えられる感情や意図が、聞き手や相手にとって理解しにくい場合もある。情報が十分に伝わらないと、相手との誤解が生じる可能性がある。非言語コミュニケーションは、場合によっては言語コミュニケーションの代替手段として使用されることがある。

言葉とジェスチャーが組み合わさることで、コミュニケーションはより豊かになることがある。身振りや手振りは、私たちの日常生活に深く根ざしている。口論したり会話したりする際に、ジェスチャーを使って自分を表現することがあるが、その文化によって異なる場合がある。例えば、インドでは手で作る OK サインは良いことを意味するが、日本ではお金を意味することがある。そのため、誤解を避けるためには、ジェスチャーの使用法に注意することが重要である。

言葉だけでなく、手、目、顔、姿勢などの身振り・手振りを使うことで、より豊かな感情や意図を伝えることができる。他者に良い印象を与えるためには、身振り・手振りを意識することが不可欠である。手のジェスチャーや笑顔、良い姿勢は、努力をあまり必要とせずに、私たちの生活に大きな影響を与えることができる。

また、この研究を進めている中で気付いたことは、日本のジェスチャーに関する書籍はあっても、インドのジェスチャーに関するものはほとんど見当たらないということであった。これまでにインドのムードラ（手のジェスチャー）に関する書籍は存在しますが、全体的なインドのジェスチャーについての情報は不足している。そこで、私は研究者として、インドの様々なジェスチャーとその意味について詳細に調査し、1冊の書籍にまとめることを考えた。このような書籍が未来の外国人にとって、インドのジェスチャーを理解し、インド人とのコミュニケーションをより円滑に行うための有益な資源となると思う。



参考文献：

1. 泉 均.(1999年12月3日). やさしい日本語指導9言語学. 鈴木 紳郎.
2. Allan Pease, B. P. (July 25th, 2006). In The Definitive Book of Body Language. Bantam Dell.
3. Frawley, D. (2012). In Mudras of India: A Comprehensive Guide to the hand gesture of yoga and Indian dance. Singing Dragon.
4. インターナショナル・インターンシップ・プログラムス. (2015年3月2日). 著: 改訂第3版 イラスト日本まるごと事典. 鈴木 哲.
5. 松井、嘉和、松本、圭司. (2000年2月25日). 著: 日本語学習者のための日本文化史. 田中 久光.
6. Japanese Body Language And Gestures
<https://www.lingualift.com/blog/japanese-body-language-gestures/>
7. Chara Scroope, 2018. Communication <https://culturalatlas.sbs.com.au/indian-culture/indian-culture-communication>
8. [Body Language and Popular Gestures' Meaning in Hindi](https://www.hindipod101.com/blog/2019/08/16/indian-body-gestures/)
<https://www.hindipod101.com/blog/2019/08/16/indian-body-gestures/>
9. Must Know Indian Hand Gestures: Decode the Body Language of India
<https://enthu.com/blog/hindi/indian-hand-gestures/>
10. A Guide to Understanding Nonverbal Communication in Japan
<https://online.pointpark.edu/business/nonverbal-communication-Japan/#:~:text=The%20Japanese%20typically%20nod%20often,consider%20what%20is%20being%20said.&text=It's%20considered%20rude%20to%20sit%20with%20legs%20crossed%20or%20slouched.>
11. Japanese Hand Gestures and Body Language and Guide
<https://livejapan.com/en/article-a0000211/Japanese-Hand-Gestures-and-Body-Language>
<https://www.japanesepod101.com/blog/2019/08/16/japanese-body-gestures/>
12. Tripathi, K., & Nandi, N. B. G. C. (2015). Continuous Indian Sign Language Gesture Recognition and Sentence Formation. Procedia Computer Science, 54, 523–531.
<https://doi.org/10.1016/j.procs.2015.06.060>